

三重県入札等監視委員会 審議概要（令和元年度 第4回）

開催日及び場所	令和2年2月28日(金)14:00～16:00 JA三重健保会館 3階 大研修室	
出席委員	委員長 木本 凱夫 副委員長 長谷部 拓哉 委員 堤 大三 委員 山田 梨津子 委員 山崎 美幸	委員5名中5名出席
入札・契約事案の審議について		
審議対象期間	令和元年10月1日から令和元年12月31日	
抽出案件	総件数 4件	(備考)
一般競争入札	4件	
指名競争入札	0件	
随意契約	0件	
委員からの意見・質問、それらに対する回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
事故繰越事案の審議について		
令和元年度事故繰越事案	3件	
委員からの意見・質問、それらに対する回答等	意見・質問	回答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申または勧告の内容	特になし	

入札等監視委員会 令和元年度 第4回定例会（令和2年2月28日）	
意見・質問	回答
入札・契約事案の審議について	
工事名 ①三重県防災通信ネットワーク(地上系・有線系)整備工事〔災害対策課〕	
<p>システム更新の理由が、備品の調達困難や老朽化が原因であるということであるが、今回総合評価の評価項目の中に、メンテナンスが長期間保たれるかの項目を設定しているか。</p> <p>今回入札参加者が2者で、過去発注の類似案件も参加者が少ない傾向がある。今回の発注は、幅広い業者が参加できる資格があるが、今回の仕様を満たす業者は少ないと想定して発注したのか、あるいはもっと参加者がいてもよいのではないかと考えているのか。</p> <p>金額の大きい工事であるが、機器購入とその設置を別々に入札することは考えなかったのか。</p>	<p>特記課題の項目に「維持管理を容易かつ確実にを行うための工夫」として、今後のメンテナンスをいかに効率よくできるかの提案を求めている。</p> <p>WTO案件であることから、より広く参加できるように参加資格を設定したが、既存システムの更新であることから、既存システムを熟知している業者や、全国的に実績のある業者が強いのかなという認識はある。</p> <p>機器購入に併せて、現地の状況に応じた加工や、現地に設置する際のカスタマイズが必要であり、それを一体的に行う必要がある。</p>
工事名 ②一般国道368号(大内拡幅) 道路改良工事〔伊賀建設事務所〕	
<p>入札参加者が2者であるところ、入札額に差があるが、考えられる理由は何か。</p> <p>総合評価の特記課題に対する提案のところ点数に差が出ており、落札者の方がより工事に適合性が高い提案であったため評価したということであるが、具体的にはどのようなところが適合性が高いと評価したのか。</p>	<p>それぞれの参加者がその工事を施工できる金額で入札していると考えるので、それで差が出ていると考える。</p> <p>落札業者の方が施工の形態や、安全対策について具体的に書かれており、円滑な工程管理や工程計画を立てる上で、リスク管理について詳細に書かれていた。また、国道や周辺の店舗、住宅地に対する粉塵・騒音が発生しないような留意点が詳細に書かれていた。全体的に具体的に書かれていたので、現場における適合性が高いと評価した。</p>
工事名 ③一般国道167号(磯部BP) 道路改良(恵利原五知トンネル(仮称))工事〔志摩建設事務所〕	
<p>ほとんどの入札参加者の入札金額が調査基準価格と同額である一方、過年度発注の同種工事と比較すると落札率に差があるが、過年度発注の同種工事との違いは何か。</p> <p>総合評価の技術提案にかかるヒアリングに対する評価が、全ての参加業者において満点である。差がなかったということか。</p>	<p>基準価格の設定方法が発注年度によって異なり、過年度発注の同種工事においても調査基準価格付近での入札金額であった。</p> <p>参加業者全てがトンネル工事の実績がある業者ばかりなので甲乙をつけがたかった。</p>
工事名 ④大里浄水場沈澱池ほか電気設備改良工事〔中勢水道事務所〕	
<p>落札者にかかる総合評価の技術提案について、施工上の留意点で具体的に優れている点は何か。</p> <p>労働安全衛生マネジメントシステムの認証取得が総合評価の評価項目に入っているが、この認証をとっていないことによる技術力や、企業としての在り方に大きな影響はないのか。</p>	<p>現在稼働中の設備を完全に止めて施工する事なく、また水道を止めることができない中で、並行して同じ規模のものを作ることへの配慮など、ポイントをおさえた提案であった。また、現場における複数業種にわたる複数の業者の施工についても整理できていた点を評価した。</p> <p>一般的に建設現場という性質を考えると、当然今回の工事においても非常に重大な事故につながる可能性が高いものであるため、企業の技術力等の評価項目として重要であり、必要である。</p>

入札等監視委員会 令和元年度 第4回定例会（令和2年2月28日）	
意見・質問	回答
事故繰越事案の審議について	
工事名 ①平成30年度中山間地域総合整備事業工事〔農山漁村づくり課〕	
斜面を切って水路を設置している施工図であるが、斜面を切らずに水路位置をずらして施工することはできなかったのか。	この水路は重要な構造物であり、水路においては、水路底の安定地盤が重要なポイントとなっている。水路位置をずらすと上流側では安定した基礎の確保ができない。ボーリング調査等で安定した岩盤を確認していたため、この位置で施工することが適切であったと判断した。
工事名 ②平成30年度林地荒廃防止施設災害復旧事業(負担法)第1号工事(ハサビ)〔治山林道課〕	
今後、降雨等で再度崩れる恐れもあると思うが、それに対して少し工法を見直すことや排水の整備を行うなどの工夫を考えているか。	排水に関しては、地中から地表へ水を出すように暗渠工を整備することとしている。工事中も含めて今後水による影響がないように配慮している。
事故繰越せず打ち切り清算して再度入札を行うと違う業者が落札する可能性もあり非効率だと思うが、そのような事例は過去にあるか。	ほぼない。
事故繰越で工期が伸びることによってコストはかかるのか。	工期が伸びることによって機械損料などは上がるため、設計額に計上している。
工事名 ③二級河川志原川平成30年河川災害復旧工事〔施設災害対策課〕	
工事の施工は海水の濁りの影響を受けるとのことだが、濁りは場所的な影響か、あるいは季節的な影響か。	見た目波が少ない状況であっても、うねりにより海の中では濁りが発生するケースもある。当該工事の施工時期は、例年であれば波が穏やかで濁りが少ない時期であるが、今年度は波の大きい日や濁りの発生する日が例年より多く発生している。
河口の閉塞は上流側からの土砂の流出の影響もあると思うが、上流側には土砂止めのような構造物はあるか。	施工箇所は熊野灘に直面しているため、河口閉塞は上流側の土砂流出より、海の波が砂を巻き上げて河口にとどまってしまうことが影響している。それを和らげるためにも波の力を抑える消波機能を持たせた構造物で砂州をつかないようにすることとしている。
海中における作業可否の判断はどのように行うのか。	受注者が判断する。まず気象庁が発表している波のデータを見て判断するが、最終的には直接現場を見てうねりの影響等がないか、濁りの影響がないかを確認して判断している。
その他	
・次回、令和2年度第1回入札等監視委員会の開催日は、令和2年5月29日(金)の予定とする。	